

9月9日は「救急の日」

“命をつなぐ行動”について知ろう

全国での救急車の出動件数は、1日平均1万6,969件。約5.1秒に1件の割合で出動しており、国民の23人に1人*が搬送されたこととなります。実は、緊急を要する状況は日常的に発生しているのです。

※2020年国勢調査人口を基準に算出



大切な命を守るため、救急隊員は常に迅速に出動しています。しかし、現場に到着するまでの所要時間を見ると、全国平均と安芸高田市では大きな開きがあります。

現場到着所要時間
(119番の通報から現場到着まで)

全国平均 9.4分

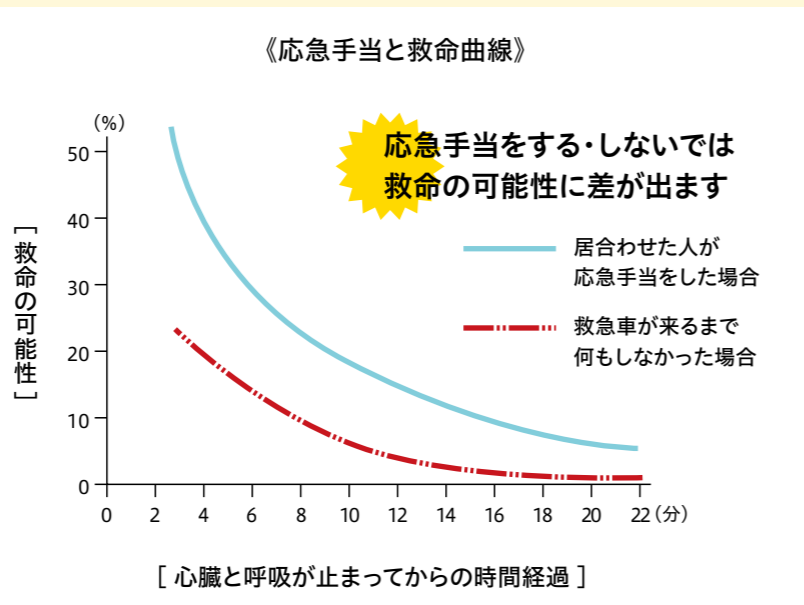
安芸高田市平均 14.0分

※2021年調べ

安芸高田市は広域のため、現場到着まで時間を要します

救急車が到着するまでの間、その場に居合わせた人が応急手当をすることが重要です。適切で速やかな応急手当が施されることで、命を救える可能性が一層向上します。

消防署では、無料の応急手当講習会を行っています。職場単位、お友達同士、スポーツクラブ単位などで受講してみませんか？なお、個人での申し込みも可能です。



詳しくは…

毎月一回
定期開催
応急手当
講習

応急手当講習 ぜひ申し込んでください

上級救命講習、普通救命講習、救命入門コース、救急教室と4種類の講習があります。目的に合った講習を選べます。

9月の定期開催 | 9日(土)

問合・申込 | 警防課 救急係 ☎42-3952



安芸高田市消防本部・安芸高田消防署 ☎42-0931・お太助フォン 42-3952 ☎47-1191



安芸高田 歴史紀行

あきたがた
れきしきこう



安芸高田市歴史民俗博物館
学芸員 古川 恵子

シリーズ
「博物館コレクション」
第25回

清神社棟札

【棟札】
建物の棟上や修理の際、建物名や年月日、願主、大工・祈願文などを記して棟木に打ち付けた木札

清神社(元祇園社)は毛利氏が本拠を置く以前から郡山の麓に鎮座する古社です。
同社の棟札は1325年から1694年までの16枚が現存しており、県の重要文化財にも指定されています。歴代の毛利家当主による社殿の建て替えが行われていることがこれらの棟札から確認できます。
今回はそのうち1522(大永2)年に社殿が建て替えられた際のものをご紹介します。大檀越(施主)は毛利家当主幸松丸で当時8歳(以後数え年)だったことが、棟札に記された生まれ年「乙亥歳」(永正12年1515年)からわかります。幸松丸はどのような人生を送ったのでしょうか。

父の死で幼くして当主に
幸松丸の父は興元(元就兄)母は現在の島根県邑南町と安芸高田市北部などを支配地域としていた高橋氏出身の女性です。誕生の翌年に興元が死去し、わずか2歳で家督を相続します。
当時の毛利氏は出雲の尼子氏と山口の大内氏の勢力争いに巻き込まれていました。1523年6月、大内方の鏡山城(東広島市)への攻撃には、尼子氏側からの強い要求を受けて幸松丸自ら出陣しています。
このことが幼い身にはこたえたのでしょうか、帰陣後に病を發して7月15日わずか9歳で亡くなってしまいました。

元就、家督相続
幸松丸が亡くなって4日後、叔父元就に家臣からの家督相続が要請されました。元就の了承を受けて郡山にあった満願寺の僧が元就の郡山入城日を占い大吉と出たのが8月10日(旧暦)。元就が戦国の世の表舞台に登場しました。
ご紹介した棟札は、偶然にもこのちょうど1年前の8月10日、健在だった幸松丸を大檀越として清神社の上棟式が行われた際のもので、現在地元に残された当主幸松丸の活動を伝える唯一のものと言えるでしょう。今年は幸松丸没後500年でもあるのです。

(梵)棟上

奉造工社頭二字

右意趣者 金輪聖王 天長地久 社頭安全 当所豊饒 神主
殊者信心 大檀越大江朝臣幸松当生乙亥歳 息災延命 大工藤原元次
恒受快樂 武運長遠 一家繁昌 御子孫安榮 別者 渡邊木工助吉
城内富貴 幸祐自在而已 于時大永二年壬午八月十日 敬白 奉行 粟屋掃部助元國

(源元吉)



清神社棟札 1522(大永2)年
清神社蔵 高さ:106.4cm